

国際ロータリー第2610地区

第61年度 D.2610 ROTARY CLUB OF KOMATSU



小松ロータリークラブ会報



2015～2016年度 国際ロータリーテーマ

世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

- ◆会 長：上杉 豊明
- ◆会長エレクト：杉本 雅規
- ◆幹 事：徳田八十吉
- ◆副 会 長：橋浦 隆

事務局 〒923-0957 石川県小松市本折町33 アパホテル(小松グランド)2F TEL.0761-24-1340・FAX.0761-24-4700
E-mail: office@komatsu-rc.jp URL: http://komatsu-rc.jp/



数左従光 会員



斉藤 浩 会員



中田一夫 会員



川腰栄一 会員

豊伸 氏
高橋定事務所

澤矢豊伸 会員



徳田八十吉 会員

小松工業高校 職業講話

6月7日(火) 於：小松工業高校

小松ロータリークラブ 2015～2016年度 会長 上杉 豊明

人生は時として思い出深い人々に出会う機会を与えてくれる場所でもある。その人の生業は小さな自転車屋さんであった。戦前、戦後の物資のない時代であったから、主にパンクの修理や部品の交換などが生業のすべてであった。家族が多かったので、暮らし向きは楽ではなかったろうと思われる。

当時小学生であった私達の通学路は砂埃の舞う砂利道で、晴天が続くと真白い砂埃で視界が遮られてしまうのである。車が通るたびに子供達は口に手をあて息をとめる。雨天には砂利道の至る所に水溜りが出来て、通る車両が更に痛みを深くしていく。まさに悪路である。

その悪路をツルハシとスコップで修繕する男性を時折見かけるようになったのは小学三年生の頃からだったかと思う。そしてその男性が、あの自転車屋さんであることにやがて私は気づいた。「ありがとう」「ごくろうさま」の声すらかけることを忘れていた私であったが、その人はごく当たり前のように体が動かなくなるまで、その悪路を補修し続けられた。

もう一人、忘れ難い人がある。名前は林仁三郎さん。生家は拙寺の門前にあった。尋常小学校を卒業すると北海道稚内の海鮮物商店に丁稚奉公に上がり、苦節を重ねて独立し店をかまえた財を成した人である。終生、故郷へ恩恵を忘れず、亡くなるまで毎年母校(日末小学校)へ多くの図書を寄贈し続けられた。それは今も「林文庫」として活用されている。ライオンズは、We serve であり、ロータリーは I serve である、と私は諸先輩から教えられてきた。それは、ロータリーがどこまでも人格的個人(I)の奉仕を尊重するからである。個人の心意気と善意が率先的に具現されることである。職業人として、個人の自覚の上に立つ行為がロータリアンのすべてである、ということだ。ポール・ハリスが目指したものは、そういう奉仕の姿であった、と私は受け止めている。

自転車屋のおじさんも、林仁三郎さんも、その胸にロータリーのバッジはなかったけれど、私は今でもあの二人は立派な I serve のロータリアンであったと思っている。